

公共交通に関する パブリックコメント用配布資料

江別市地域公共交通網形成計画（案）

江別市地域公共交通再編実施計画（案）

平成30年4月

江 別 市

江別市地域公共交通活性化協議会

市内を運行する路線バスの年間利用者数は、平成18年度の約525万人に対し、平成28年度では約413万人となり、この10年間で約112万人（2割強）減少しています。

利用者の減少に伴い、路線バス事業者の収支は悪化しており、毎日運行している市内完結路線（起点・経由・終点のいずれもが市内のバス路線）3路線だけをみても平成28年度の赤字額は約4,500万円となっています。市では、バス事業者に対して運行費用の一部を補助していますが、現状の運行規模をこのまま維持することは難しい状況といえます。

また、これに加えて、近年、深刻化している「人材不足」が、バス業界にも大きな影響を与えており、大型2種免許を必要とするバス運転手の確保が年々厳しくなっていることも、路線バスの運行を難しくしています。バス事業者は、「バス運転手不足は危機的な状況である」と考えているのが実情です。

これらの課題に対応し、バス路線を今後も維持していくためには、「路線バスを多くの人に利用してもらい、運賃収入を増やすこと」や「バス路線の見直しなどにより運行経費を減らすこと」が必要です。

市では、このことを踏まえ、バスの利用促進策と路線の合理化をあわせて実施することで、「市民の利便性とバス事業者の採算性のバランスを図る」ことにより、地域の実情に即した持続可能な公共交通網を構築するため、江別市地域公共交通活性化協議会による協議、検討を重ね、平成30年3月に「江別市地域公共交通網形成計画」及び「江別市地域公共交通再編実施計画」の案を作成しました。

両計画案について、パブリックコメントを行いますので、ご意見をお寄せください。

平成30年4月

江別市企画政策部政策推進課公共交通担当

（電話：011-381-1295）

【 目 次 】

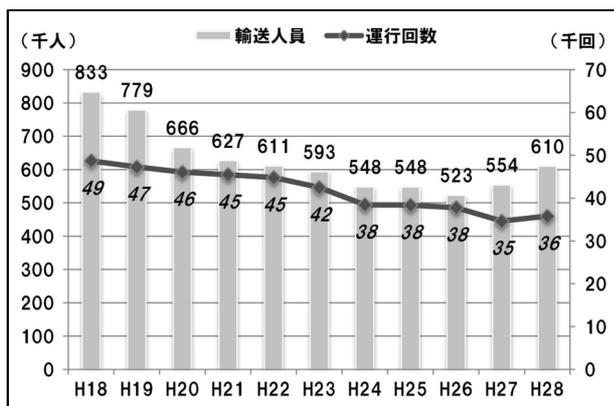
江別市における地域公共交通の現状	1
江別市地域公共交通網形成計画の概要	3
江別市地域公共交通網形成計画の目標	10
江別市地域公共交通再編実施計画の内容	12
江別市地域公共交通再編実施計画における事業の効果	28

江別市における地域公共交通の現状

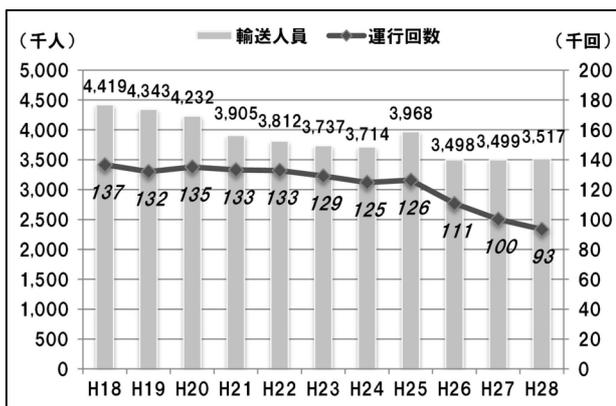
路線バスの輸送実績の推移

路線バスの輸送実績は、市内路線、市外路線ともに、近年、減少傾向が続いており、特に市内路線の輸送人員は平成 18 年度に比べ 7 割程度に落ち込んでいます。ただし、市内路線では、平成 26 年度を境として輸送人員が増加傾向に転じた可能性も見受けられます。

運行回数は、輸送人員同様、近年、減回傾向にあります。特に市外路線においては、平成 26 年度から、前年度の約 1 割に相当する減回が行われています。



市内路線バス輸送実績

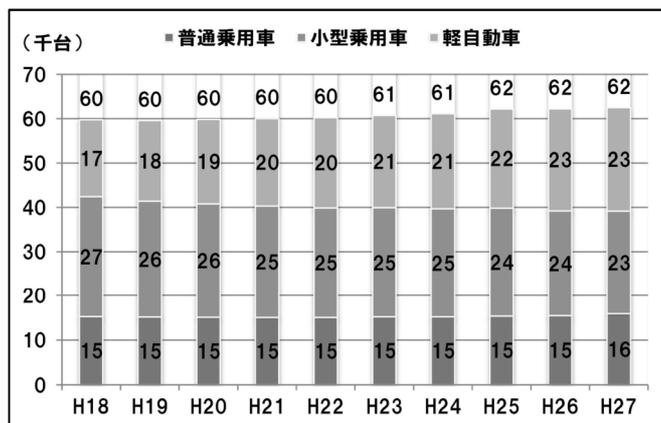


市外路線バス輸送実績

(H18～H27 は江別市統計書、H28 はバス事業者提供資料より)

自家用車保有台数の推移

過去 10 年間における自家用車の保有台数は、普通乗用車に変化は見られないものの、小型乗用車はやや減少傾向にある一方で、軽自動車は増加傾向にあり、全体として微増となっています。



自家用車保有台数 (江別市統計書より)

(自動車は、貨物自動車、乗合自動車及び特種・特殊用途を除く)

路線バスの収支状況

江別市内を運行する路線バス事業者のうち、北海道中央バス株式会社と夕張鉄道株式会社は、市内路線、市外路線ともに、全ての路線で赤字運行となっています。

なお、ジェイ・アール北海道バス株式会社は、収支を公表していません。

平成28年度におけるバス路線に係る収支・補助状況

単位: 万円

	路線名	収支 [A]			補助額 [B]			差額 [A] + [B]
		収入	支出	収支差	国・道	江別市	計	
北海道中央バス株式会社	札江線	2,778	5,348	-2,570	2,272	0	2,272	-298
	江別・新さっぽろ線	12,926	13,953	-1,027	0	0	0	-1,027
	江別2番通線	5,051	6,753	-1,703	0	100	100	-1,603
	江別4番通線	2,435	4,319	-1,884	0	100	100	-1,784
	江別錦町線	1,565	2,531	-967	0	0	0	-967
夕張鉄道株式会社	江別線	11	130	-119	0	0	0	-119
	札幌線	2,206	3,099	-893	0	0	0	-893
	札幌代行線	7,475	9,841	-2,366	1,051	0	1,051	-1,315
	新札夕線	2,761	5,521	-2,760	2,314	0	2,314	-446
ジェイ・アール北海道バス株式会社	江別線							
	野幌運動公園線							
	共栄線							
	米里線							
	文京台線							
	大麻団地線							

※₁ 平成27年10月～平成28年9月の数値を集計。

※₂ 毎日運行している市内完結路線は「江別2番通線」、「江別4番通線」、「江別錦町線」であり、この3路線の補助金を含めた収支は4,414万円の赤字となる。

江別市地域公共交通網形成計画の概要

計画の区域：江別市全域

計画の期間：平成 30 年度から平成 34 年度までの 5 年間

地域公共交通の課題、課題の解決に向けた基本方針等

地域公共交通の課題	▶	課題解決に向けた基本方針	▶	施策項目
課題 公共交通ネットワークの維持・確保	▶	基本方針1 持続可能な公共交通ネットワークの維持・確保に向けた公共交通の利便性・効率性の向上	▶	<ul style="list-style-type: none"> ・バスネットワークの再編 ・運賃制度の見直し
課題 駅を中心としたまちづくりと公共交通の再構築	▶	基本方針2 駅を中心としたコンパクトなまちづくりの推進	▶	<ul style="list-style-type: none"> ・交通結節機能の強化
課題 公共交通の利用環境の改善	▶	基本方針3 誰もが安心して移動できる環境づくりの推進	▶	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通に関する基本的な情報の整理及び提供 ・運行情報の提供 ・待合環境の整備 ・バス路線の除排雪 ・子育て世代や高齢者の移動支援
課題 移動に関する意識	▶	基本方針4 クルマに頼りすぎないライフスタイルの推進	▶	<ul style="list-style-type: none"> ・モビリティ・マネジメント（MM）の推進
課題 行政による支援の必要性	▶	基本方針5 公共交通を支える仕組みづくり	▶	<ul style="list-style-type: none"> ・補助制度の見直し

目標達成のための施策及び事業

基本方針 1

持続可能な公共交通ネットワークの維持・確保に向けた公共交通の利便性・効率性の向上

施策項目（1）バスネットワークの再編	
具体的な施策	
① バス路線の見直し	バス利用実態やアンケート調査等の分析によるニーズを踏まえ、市民の利便性とバス事業者の採算性のバランスを図り、持続可能なバス路線を形成するための見直しを行います。
② バス運行ダイヤの見直し	バス路線の見直しに合わせ、バス車両の保有台数や不足している運転手の状況など、バス事業者の供給体制を踏まえながら、通勤・通学・通院・買物などのニーズやJRとの乗り継ぎを考慮した運行ダイヤへの見直しを行います。
③ バス路線の既存停留所に係る検討	分かりやすいバス路線を形成するため、既存の停留所について、集約の可能性や、名称の統一化または差別化を検討します。 バス路線の見直し後に生じる新たなニーズ等を捉え、利用者の増加が見込まれる、または停留所間の距離が離れている区間について、停留所の移設または新設を検討します。
④ 公共交通空白地域における新たな交通手段の導入に係る検討	公共交通の利用が著しく不便な市郊外部や、市街地内で近くにバス路線がない地域について、既存公共交通を補完する新たな交通手段（デマンド型交通、タクシー事業の活用等）の導入を検討します。
施策項目（2）運賃制度の見直し	
具体的な施策	
① バス事業者間での乗継割引運賃の導入可能性に係る検討	JR駅前バス停留所における路線バス各事業者間での乗継割引運賃の導入可能性を検討します。

基本方針 2

駅を中心としたコンパクトなまちづくりの推進

施策項目（1）交通結節機能の強化

具体的な施策

① 交通結節点における情報の充実化

江別市では、JR江別駅、野幌駅、大麻駅の3駅が主要な交通結節点となっています。このため、各駅におけるバス案内情報の充実化（統合時刻表の整備、バスマップの配架等）により結節機能を強化し、JRと路線バス双方の利用促進、利便性向上を図ります。

② バス路線の見直し【再掲】

「基本方針1 持続可能な公共交通ネットワークの維持・確保に向けた公共交通の利便性・効率性の向上」の「施策項目（1）バスネットワークの再編」から再掲

③ バス運行ダイヤの見直し【再掲】

「基本方針1 持続可能な公共交通ネットワークの維持・確保に向けた公共交通の利便性・効率性の向上」の「施策項目（1）バスネットワークの再編」から再掲

基本方針3

誰もが安心して移動できる環境づくりの推進

施策項目（1）公共交通に関する基本的な情報の整理及び提供

具体的な施策

① 分かりやすいバスマップの作成

路線バスを利用するうえで基本的な情報となるバス路線や運賃、支払い方法などを網羅した、分かりやすいバスマップを作成します。

全市的なバスマップのほか、用途（通院、買物、公共施設など）や地域（江別、野幌、大麻など）によって、使いやすいバスマップを作成します。

② 路線バスの乗り方ガイドの作成

江別市内を運行するバス事業者の間でも、ICカード導入や小児運賃制度などの状況が異なることから、これらを網羅した乗り方ガイドを作成します。

③ ニュースレターの作成

バス路線の見直しに合わせ、市民に向けて、バス路線等を周知するためのニュースレターを作成します。

④ 広報やホームページ等を活用した利用促進活動の強化

今後のバス路線の維持に向けては、市民が日頃から意識的にバスを利用することが重要であると考えられることから、公共交通の利用促進に関するPR活動や情報提供を、市の広報やホームページを通じ、強化して実施します。

バス路線の見直し時は、市民へのPR活動や情報提供をさらに強化するため、広報折込みにより市内各世帯へ、バスマップや乗り方ガイド、ニュースレターを配付します。

⑤ 公共交通空白地域における新たな交通手段の導入に合わせた周知ポスター及びニュースレターの作成

公共交通の利用が著しく不便な市郊外部や、市街地内で近くにバス路線がない地域について、既存公共交通を補完する新たな交通手段（デマンド型交通、タクシー事業の活用等）の導入を検討することとしていますが、実際に導入する際には、地域住民に対して周知するためのポスターやニュースレターを作成します。

施策項目（2）運行情報の提供

具体的な施策

① バスロケーションシステム等の導入に係る検討

全国的に導入が進んでいるバスロケーションシステム等は、江別市においても路線バスの利便性（特に冬季における待合環境）の向上に有効と考えられます。

また、利用者がライフスタイルをバスに合わせていくためにも今後必要になっていくと考えられます。このため、スマートフォンやパソコンなどにより、路線バスの運行状況等が分かるシステムの導入を検討します。

施策項目（３）待合環境の整備

具体的な施策

① 商業施設等と連携した待合環境の整備に係る検討

バス待合環境の整備のため、バスロケーションシステム等の導入検討に合わせ、路線バスの運行状況等を表示するディスプレイを商業施設等に設置することを検討します。

② 自治会等が主体となるバス待合所に係る検討

江別市内には、自治会や大学などが管理するバス待合所が多く設置され、多くの市民に利用されています。このため、自治会、大学、企業などが主体となるバス待合所に関する取組みがさらに増え、バス待合環境が向上するよう、その手法について検討します。

施策項目（４）バス路線の除排雪

具体的な施策

① バス路線に配慮した除排雪

冬期間における江別市内の道路は、路肩の堆雪等により車道幅が狭くなる場合があります。これが路線バスの運行遅延につながる原因のひとつになっています。

このため、バス路線に配慮した除排雪により、冬期間における路線バスの運行環境の維持、改善に努めます。

施策項目（５）子育て世代や高齢者の移動支援

具体的な施策

① 妊婦や子ども連れ利用者への支援に係る検討

妊婦や小さな子供を連れた親が通う施設・場所に着目した、路線バスの利用ガイドを作成することで、利用促進、利便性向上を図ることを検討します。

② 高齢者の移動、外出支援に係る検討

今後、高齢化の進行等により、自家用車を利用することができない市民の増加が予想されます。このため、高齢者の移動、外出を支援する制度（運賃割引、タクシー事業の活用等）の導入可能性について検討します。

③ 誰にでも利用しやすい車両の導入

世代や身体の状態に関わらず、誰にでも利用しやすい公共交通を目指すため、車両更新などの機会に合わせ、低床型車両やユニバーサルデザイン車両の導入に努めます。

基本方針4

クルマに頼りすぎないライフスタイルの推進

施策項目（1）モビリティ・マネジメント（MM）の推進

具体的な施策

① 市民に対する出前講座等の実施

公共交通を今後も持続させていくためには、市民の公共交通に対する理解が不可欠であるため、市民の希望（子育て世代向け、高齢者向け等）に合わせた出前講座等を実施します。

② 転入者に向けた利用促進

転入者は、江別市における日常の移動方法がまだ習慣づけられていない場合が多いと思われ、利用促進活動の対象として効果的であると考えられます。

このため、転入時に公共交通に関する情報提供を行うことで、利用促進を図ります。

③ 継続的な利用促進・啓発活動に係る検討

公共交通の利用促進・啓発活動を効果的に行うため、地域のイベント等と連携して継続的に実施していくことを検討します。

公共交通の利用促進策として、運賃と市内施設の利用料等を一体とした企画乗車券等について検討します。

④ 環境教育等と連携した児童・生徒への啓発活動の実施に係る検討

児童・生徒は、公共交通における将来の利用者であることから、環境教育等と連携した公共交通の利用啓発活動の実施について検討します。

基本方針5

公共交通を支える仕組みづくり

(1) 補助制度の見直し

具体的な施策

① 路線バス事業者への補助制度の見直し

市内バス路線を適切に維持するため、路線バス事業者を対象とする市の既存補助制度について、随時、見直しを行います。

② 新たな交通手段に関する補助制度に係る検討

公共交通空白地域における新たな交通手段の導入に係る検討に合わせ、当該交通手段の運行主体を対象とする市の補助制度などについて検討します。

江別市地域公共交通網形成計画の目標

計画の目標

本計画は、誰もが利用しやすく、持続可能な公共交通ネットワークの構築を実現すべく、交通・まちづくりに関連する江別市の他の計画と連携しながら推進するものです。

このことを踏まえ、本計画の目標を以下2項目とし、それぞれに達成状況を評価するための指標及び現況値・将来目標値を設定します。

- (1) 路線バス輸送人員の維持
- (2) 交通環境に満足している市民割合の向上

(1) 路線バス輸送人員の維持

少子高齢化の進展とともに人口減少が進む中、本計画の推進が路線バスの利用者減少を抑制し、持続可能な公共交通ネットワークの構築に寄与しているかを評価するため、目標を路線バス輸送人員により設定します。

把握する指標	現況値 (H26~H28の平均値)	将来目標値 (H34)	将来目標値設定の考え方
路線バス輸送人員 (市内路線と市外路線)	合計 4,067千人 ※参考 市内路線 562千人 市外路線 3,505千人	合計 4,067千人	路線バス輸送人員（市内路線）は、江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略における指標になっている。本計画は、市外路線も対象に推進するものであることから、指標は「市内路線と市外路線」とする。 将来目標値としては、バス路線見直しによる運行の効率化や利用促進施策による利便性向上を図り、利用者数の維持を目指す。

(2) 交通環境に満足している市民割合の向上

市民の交通環境に関する満足度が、本計画の推進により向上しているかを評価するため、目標を交通環境に満足している市民割合により設定します。

把握する指標	現況値 (H28)	将来目標値 (H34)	将来目標値設定の考え方
交通環境に満足している市民割合	65.9%	69.0%	指標としては、江別市まち・ひと・しごと創生総合戦略における指標より。 将来目標値としては、上記指標（5年で3.2%の向上）を参考とし、本計画の最終年度である平成34年度に当てはめ設定。

事業スケジュール

課題の解決に向けた基本方針	施策項目	具体的な施策	事業スケジュール					実施主体
			H30	H31	H32	H33	H34	
基本方針1 持続可能な公共交通ネットワークの維持・確保に向けた公共交通の利便性・効率性の向上	バスネットワークの再編	① バス路線の見直し	実施					江別市、公共交通事業者等
		② バス運行ダイヤの見直し	実施					
		③ バス路線の既存停留所に係る検討		検討	順次実施			
		④ 公共交通空白地域における新たな交通手段の導入に係る検討	検討		順次実施			
	運賃制度の見直し	① バス事業者間での乗継割引運賃の導入可能性に係る検討	検討		順次実施			江別市、公共交通事業者等
基本方針2 駅を中心としたコンパクトなまちづくりの推進	交通結節機能の強化	① 交通結節点における情報の充実化	実施					江別市、公共交通事業者等
		② バス路線の見直し【再掲】						
		③ バス運行ダイヤの見直し【再掲】						
基本方針3 誰もが安心して移動できる環境づくりの推進	公共交通に関する基本的な情報の整理及び提供	① 分かりやすいバスマップの作成	実施					江別市、公共交通事業者等
		② 路線バスの乗り方ガイドの作成	実施					
		③ ニュースレターの作成	実施	随時実施				
		④ 広報やホームページ等を活用した利用促進活動の強化	実施					
		⑤ 公共交通空白地域における新たな交通手段の導入に合わせた周知ポスター及びニュースレターの作成	公共交通空白地域における新たな交通手段の導入に係る検討に合わせ随時実施					
	運行情報の提供	① バスロケーションシステム等の導入に係る検討	検討		順次実施			江別市、公共交通事業者等
	待合環境の整備	① 商業施設等と連携した待合環境の整備に係る検討	バスロケーションシステム等の導入に係る検討に合わせ検討・協議、順次実施					江別市、公共交通事業者、企業、自治会、大学等
		② 自治会等が主体となるバス待合所に係る検討		検討	順次実施			
	バス路線の除排雪	① バス路線に配慮した除排雪	実施					江別市、国、北海道
	子育て世代や高齢者の移動支援	① 妊婦や子ども連れ利用者への支援に係る検討	① 妊婦や子ども連れ利用者への支援に係る検討	検討		順次実施		
② 高齢者の移動、外出支援に係る検討			検討		順次実施			
③ 誰にでも利用しやすい車両の導入			随時実施					
基本方針4 クルマに頼りすぎないライフスタイルの推進	モビリティ・マネジメントの推進	① 市民に対する出前講座等の実施	実施					江別市、公共交通事業者等
		② 転入者に向けた利用促進	実施					
		③ 継続的な利用促進・啓発活動に係る検討	検討		順次実施			
		④ 環境教育等と連携した児童・生徒への啓発活動の実施に係る検討	検討		順次実施			
基本方針5 公共交通を支える仕組みづくり	補助制度の見直し	① 路線バス事業者への補助制度の見直し	検討	実施				江別市
		② 新たな交通手段に関する補助制度に係る検討	検討	公共交通空白地域における新たな交通手段の導入に係る検討に合わせ実施				

計画の達成状況の評価

「江別市地域公共交通活性化協議会」において、計画の達成状況の評価を実施し、必要に応じて計画に基づく事業の実施内容に反映するものとします。

江別市地域公共交通再編実施計画の内容

計画の全体像（バス路線再編の全体像）

江別市内を運行するバス路線と本計画に基づき実施するバス路線再編は以下のとおり。

事業内容		再編時期	実施主体	備考	
統合	新設	(仮称)循環線	H30.10.1	北海道中央バス株式会社	
	廃止	江別4番通線	H30.10.1	北海道中央バス株式会社	
		江別錦町線	H30.10.1	北海道中央バス株式会社	
経路変更		江別2番通線	H30.10.1	北海道中央バス株式会社	
		江別・新さっぽろ線	H30.10.1	北海道中央バス株式会社	
		札幌線	H30.10.1	北海道中央バス株式会社	
		札幌線	H31. 4.1	夕張鉄道株式会社	あけぼの団地 発
変更なし (本計画の対象外)		江別線	—	ジェイ・アール北海道バス株式会社	
		野幌運動公園線	—	ジェイ・アール北海道バス株式会社	
		共栄線	—	ジェイ・アール北海道バス株式会社	
		米里線	—	ジェイ・アール北海道バス株式会社	
		文京台線	—	ジェイ・アール北海道バス株式会社	
		大麻団地線	—	ジェイ・アール北海道バス株式会社	
		札幌線	—	夕張鉄道株式会社	文京台南町 発
		江別線	—	夕張鉄道株式会社	中の月 発
		江別線	—	夕張鉄道株式会社	野幌駅南口 発
		札幌代行線	—	夕張鉄道株式会社	栗山駅前 発
		札幌代行線	—	夕張鉄道株式会社	南幌南町 発
		新札夕線	—	夕張鉄道株式会社	
		ニューしのつバス	—	新篠津村	

【路線再編】

平日運行する予定の路線のみ掲載しています。

江別・新さっぽろ線／北海道中央バス株式会社（H30.10.1再編）

- ・新栄台地区は、近年、住宅街として発展し人口が増加していること、及び江別錦町線の廃止を踏まえ、JR江別駅、江別市立病院と見晴台、新栄台地区を結び系統を新たに運行する。
- ・江別4番通線の廃止を踏まえ、見晴台、元江別、いすみ野方面からJR江別駅へ向かう、朝の通勤通学に対応する系統を新たに運行する。

(仮称)循環線／北海道中央バス株式会社（H30.10.1再編）

- ・多額の赤字を抱える江別4番通線と江別錦町線を統合し、新たな路線を設定する。
- ・運行経路は、平成27年度に実証運行を行った「野幌見晴台線」の考え方を基本とし、JR野幌駅への速達性の向上や、JR高砂駅利用の需要に配慮した運行形態とする。
- ・見晴台方面や元江別、いすみ野方面とJR野幌駅を結ぶ経路の確保など、江別4番通線と江別錦町線の経路を一部引き継ぎ、速達性に大きく影響する道路幅や交通渋滞の起こりやすい場所なども考慮した経路とする。

江別2番通線／北海道中央バス株式会社（H30.10.1再編）

- ・8丁目通～11丁目通の区間の経路を2番通から3番通へ変更することにより、他のバス路線との競合を一部解消するとともに、JR大麻駅と大麻地区北東側を結び、
- ・江別・新さっぽろ線のあけぼの団地方面の運行を集約し、運行の効率化を図る。
- ・江別4番通線の廃止や江別・新さっぽろ線のあけぼの団地発系統の廃止を踏まえ、あけぼの団地方面・野幌駅等から野幌高校への通学など、野幌地区北西側のバス路線空白化に対応する。
- ・JR大麻駅と「大麻11丁目」停留所の区間は、大麻地区における江別市立病院への移手段を確保する必要があることを踏まえ、既存経路を維持する。

札江線／北海道中央バス株式会社（H30.10.1再編）

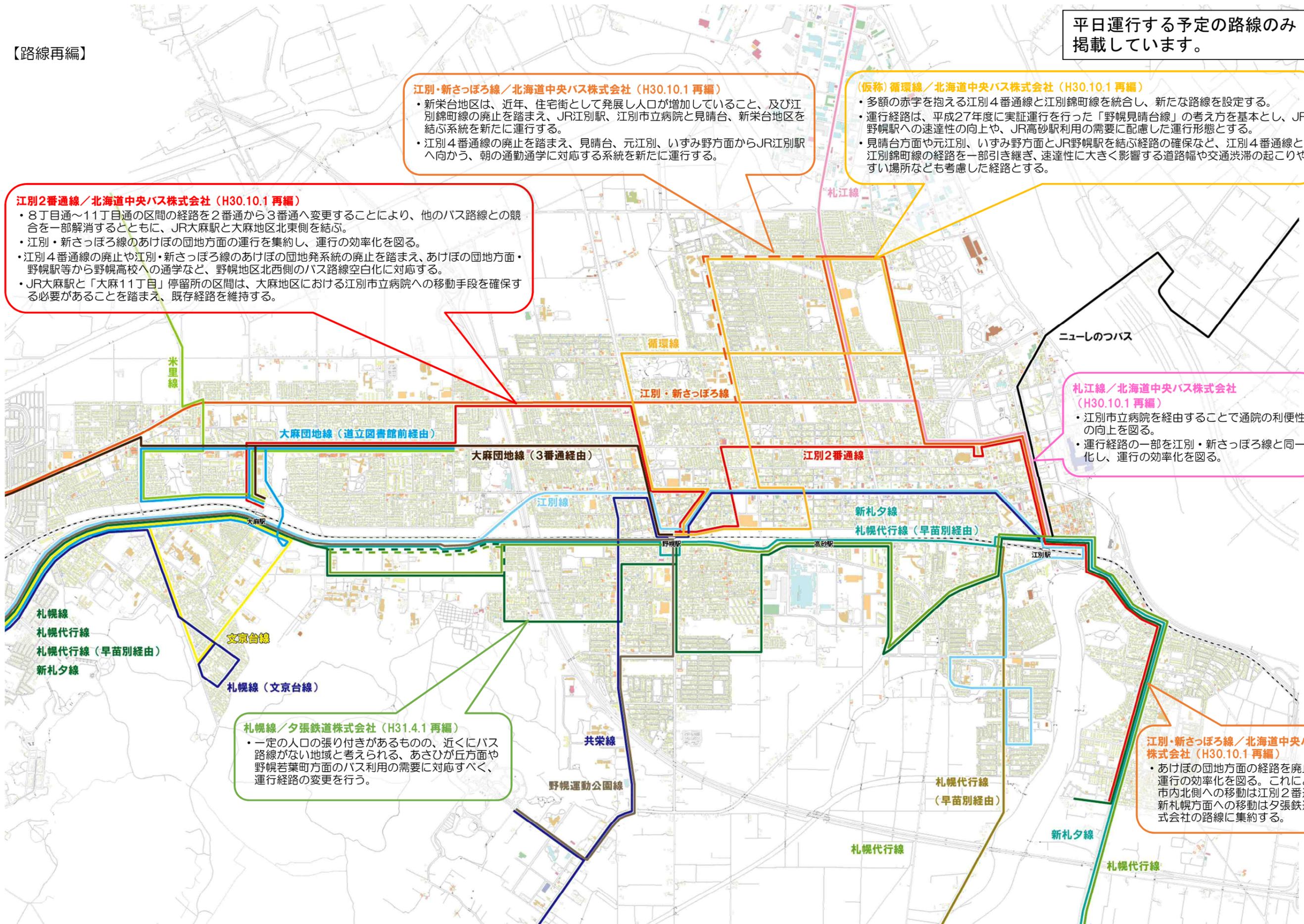
- ・江別市立病院を経由することで通院の利便性の向上を図る。
- ・運行経路の一部を江別・新さっぽろ線と同一化し、運行の効率化を図る。

札幌線／夕張鉄道株式会社（H31.4.1再編）

- ・一定の人口の張り付きがあるものの、近くにバス路線がない地域と考えられる、あさひが丘方面や野幌若葉町方面のバス利用の需要に対応すべく、運行経路の変更を行う。

江別・新さっぽろ線／北海道中央バス株式会社（H30.10.1再編）

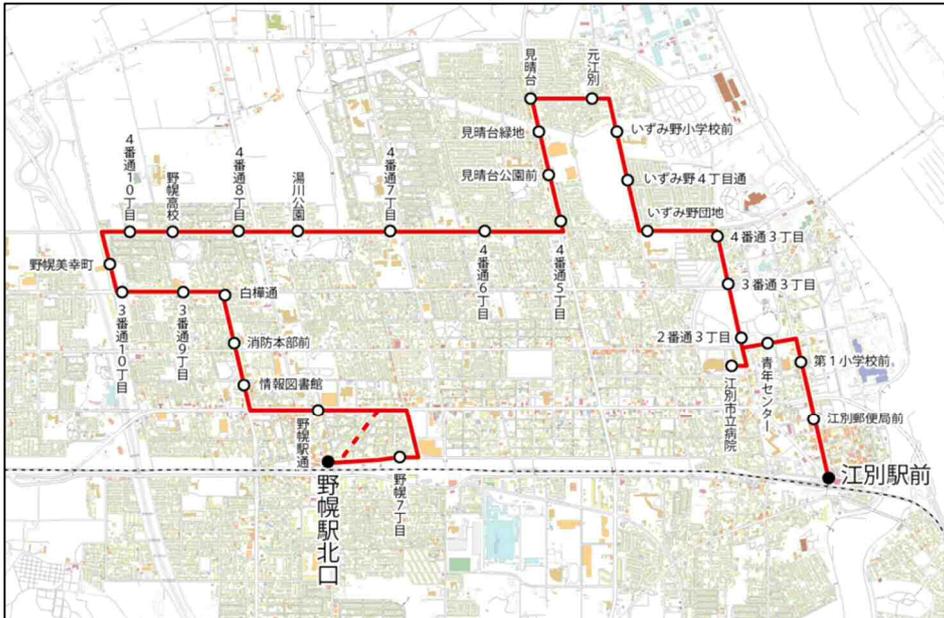
- ・あけぼの団地方面の経路を廃止し、運行の効率化を図る。これにより、市内北側への移動は江別2番通線、新札幌方面への移動は夕張鉄道株式会社の路線に集約する。



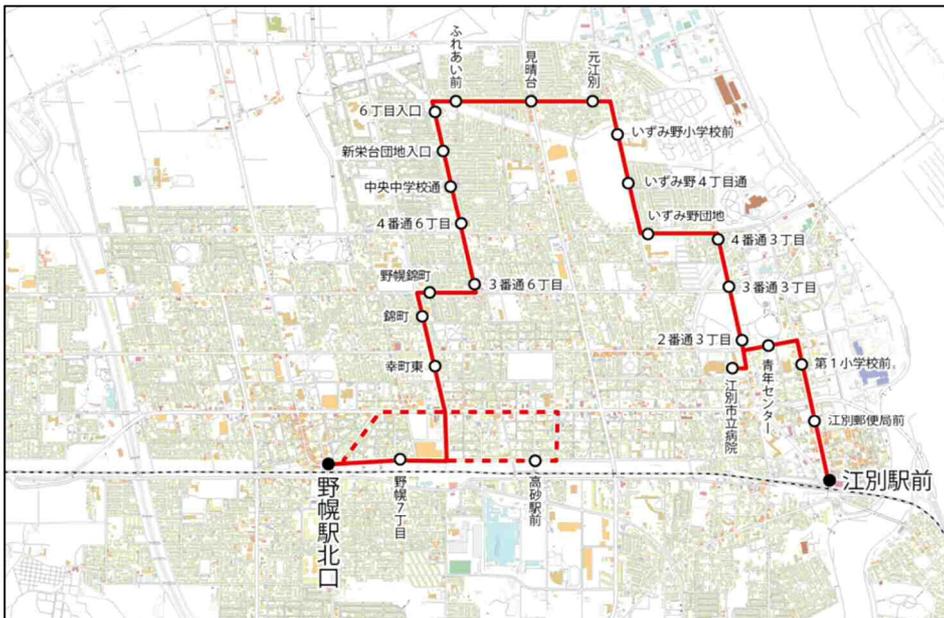
次頁からは、個別の路線見直しについて掲載しています。

【運行を廃止する路線】

江別4番通線



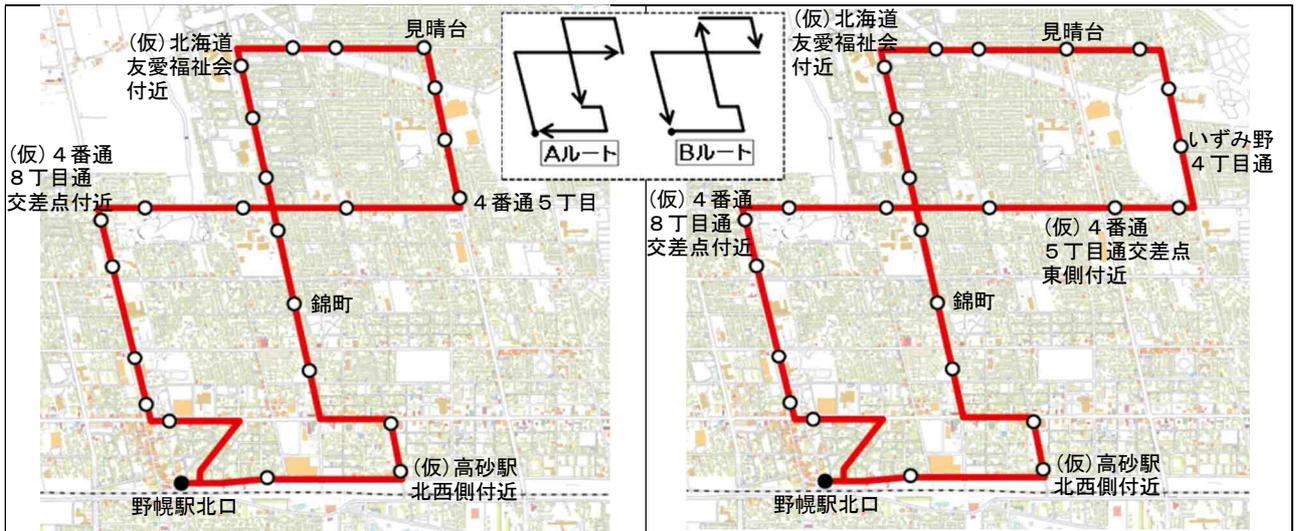
江別錦町線



廃止路線の概要

<p>廃止の視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> 江別4番通線と江別錦町線は、起終点が同一であり、かつJR江別駅から「見晴台」停留所までの経路が同一であるため、非効率な運行となっている。 これにより江別4番通線では年間1,800万円以上、江別錦町線では年間約1,000万円の赤字（平成28年度）を抱えており、路線を維持することが難しい状況となっているため、(仮称)循環線へ統合することにより路線の再編を行うものである。 	
<p>起終点等</p>	<p>江別4番通線</p> <p>起点：江別駅前 終点：野幌駅北口 運行距離：約12km</p>	<p>江別錦町線</p> <p>起点：江別駅前 終点：野幌駅北口 運行距離：約8km</p>

基本となる運行系統



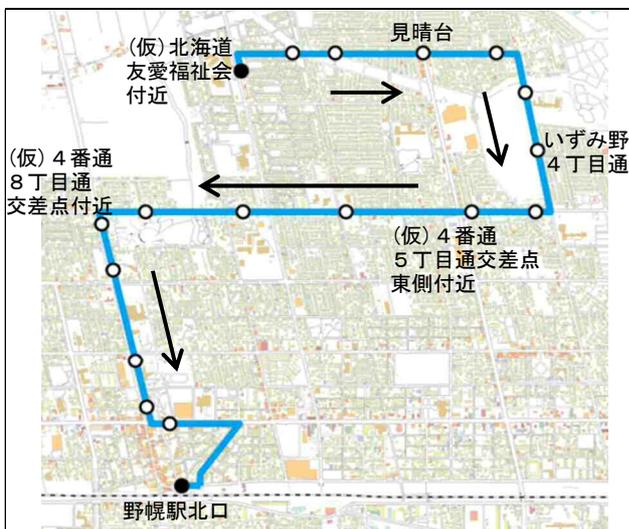
5丁目通経由の系統のうち、基本となる運行系統（概ね8～20時台に運行）。

	平日	土日祝日
Aルート	11便程度	7便程度
Bルート	6便程度	5便程度

4丁目通経由の系統のうち、基本となる運行系統（概ね8～20時台に運行）。

	平日	土日祝日
Aルート	5便程度	5便程度
Bルート	8便程度	6便程度

通勤・通学のために朝のみ運行する系統



通勤・通学の利用者を JR 野幌駅へ送るため、朝（概ね6～7時台に野幌駅着）に設定する運行系統。

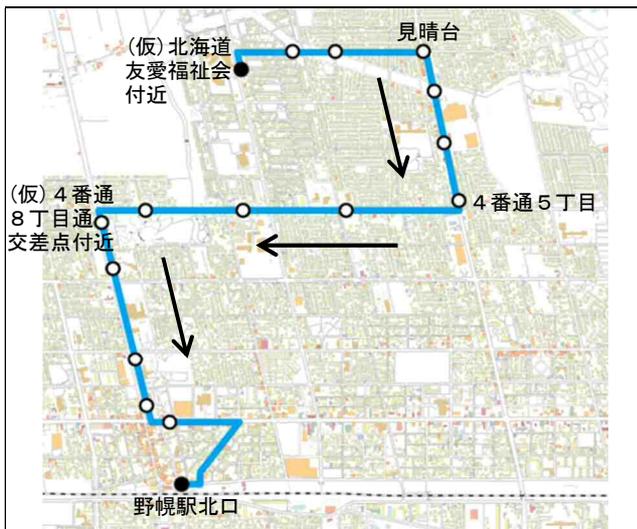
	平日	土日祝日
Bルート	1便程度	—



通勤・通学の利用者を JR 野幌駅へ送るため、朝（概ね6～7時台に野幌駅着）に設定する運行系統。

	平日	土日祝日
Aルート	2便程度	1便程度

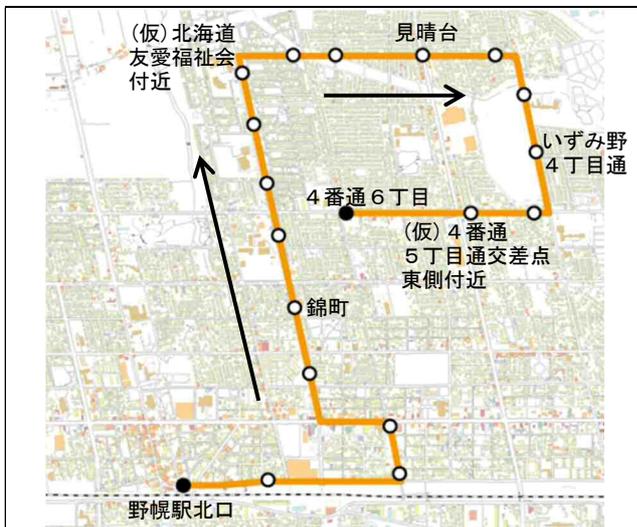
通勤・通学のために朝のみ運行する系統（続き）



通勤・通学の利用者を JR 野幌駅へ送るため、朝（概ね6～7時台に野幌駅着）に設定する運行系統。

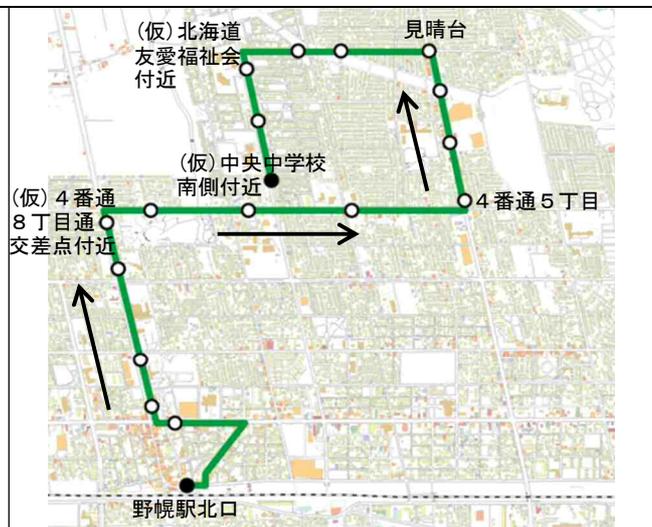
	平日	土日祝日
Bルート	1便程度	1便程度

JR野幌駅からの帰宅のために夜のみ運行する系統



JR野幌駅からの帰宅のため、夜（概ね20時台以降に野幌駅発）に設定する運行系統。

	平日	土日祝日
Bルート	2便程度	2便程度

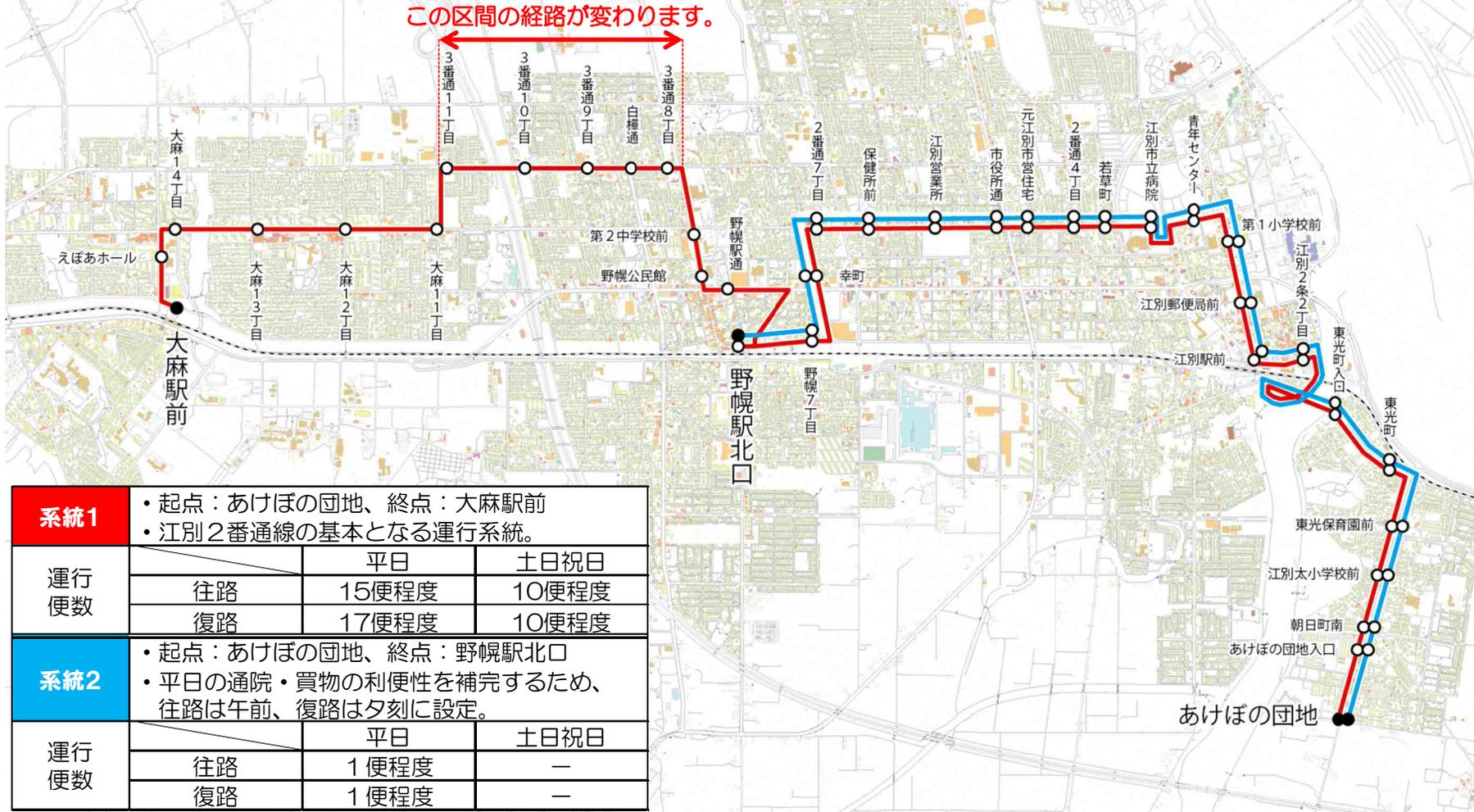


JR野幌駅からの帰宅のため、夜（概ね20時台以降に野幌駅発）に設定する運行系統。

	平日	土日祝日
Aルート	1便程度	2便程度

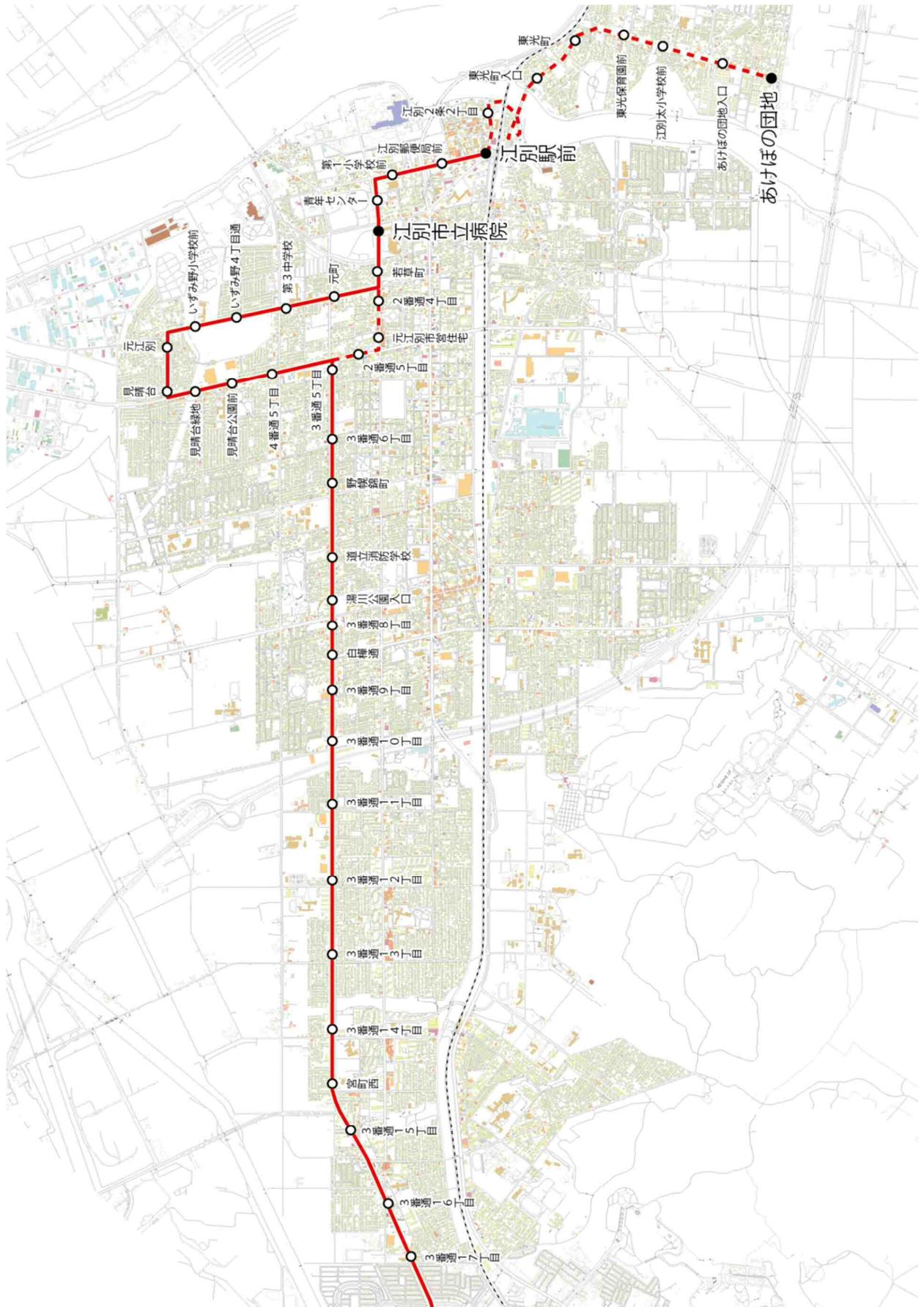
運行便数	平日		土日祝日	
	再編前	再編後	再編前	再編後
往路	21便	16便程度	13便	10便程度
復路	22便	18便程度	13便	10便程度
備考	上記便数には、途中起点便、途中終点便を含む。			

乗降できるようになる停留所	3番通8丁目、白樺通、3番通9丁目、3番通10丁目、3番通11丁目
乗降できなくなる停留所	消防本部前、2番通9丁目、2番通10丁目、大麻栄町



系統1	<ul style="list-style-type: none"> 起点：あけぼの団地、終点：大麻駅前 江別2番通線の基本となる運行系統。 		
運行便数		平日	土日祝日
	往路	15便程度	10便程度
	復路	17便程度	10便程度
系統2	<ul style="list-style-type: none"> 起点：あけぼの団地、終点：野幌駅北口 平日の通院・買物の利便性を補完するため、往路は午前、復路は夕刻に設定。 		
運行便数		平日	土日祝日
	往路	1便程度	—
	復路	1便程度	—

【運行経路を変更する路線】
江別・新さっぽろ線（現状）



運行便数	平日		土日祝日	
	再編前	再編後	再編前	再編後
往路	34便	31便程度	28便	25便程度
復路	33便	31便程度	27便	25便程度
備考	上記便数には、途中起点便、途中終点便、廃止系統（再編前）を含む。			

乗降できるようになる停留所	ふれあい前、(仮)ふれあい通6丁目通交差点西側付近、(仮)北海道友愛福祉会付近、(仮)中央中学校北側付近、(仮)中央中学校南側付近、(仮)北海道消防学校東側付近
乗降できなくなる停留所	あけぼの団地、あけぼの団地入口、朝日町南、江別太小学校前、東光保育園前、東光町、東光町入口、江別2条2丁目



あけぼの団地とJR江別駅の区間（5往復運行）は、経路が廃止になります。

系統1	<ul style="list-style-type: none"> 起点：江別駅前、終点：新さっぽろ駅 江別・新さっぽろ線の基本となる運行系統。 		
運行便数		平日	土日祝日
	往路	25便程度	19便程度
	復路	18便程度	15便程度
系統2	<ul style="list-style-type: none"> 起点：江別市立病院、終点：新さっぽろ駅 新札幌からの帰宅のため、夜に復路として設定する運行系統。 		
運行便数		平日	土日祝日
	復路	4便程度	3便程度

系統3	<ul style="list-style-type: none"> 起点：江別駅前、終点：4番通5丁目 見晴台、元江別、いずみ野方面からJR江別駅へ向かう、平日の朝の通勤・通学に対応するため、復路として設定する運行系統。 		
運行便数		平日	土日祝日
	復路	2便程度	—
系統4	<ul style="list-style-type: none"> 起点：江別駅前、終点：新さっぽろ駅 経路の一部について、新栄台（新栄通）を通るものとして設定する運行系統。 		
運行便数		平日	土日祝日
	往路	6便程度	6便程度
	復路	7便程度	7便程度

【運行経路を変更する路線】

札江線（現状）



札江線（運行経路変更後）



運行便数	平日		土日祝日	
	再編前	再編後	再編前	再編後
往路	10便	8便程度	7便	6便程度
復路	10便	8便程度	7便	6便程度
備考				

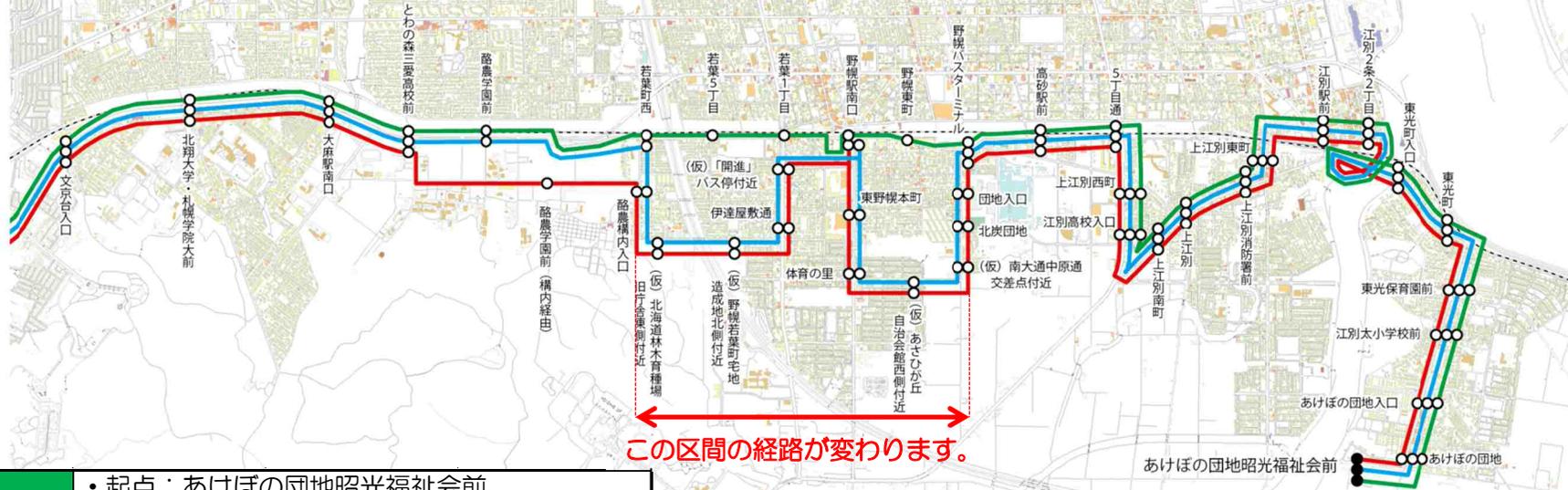
乗降できるようになる停留所	青年センター、江別市立病院、若草町、元町
乗降できなくなる停留所	飛鳥山公園、3番通3丁目、北電社宅、3番通4丁目

系統1	<ul style="list-style-type: none"> 起点：あけぼの団地昭光福祉会前、 終点：新さっぽろ駅前 札幌線の基本となる運行系統。 		
	運行便数	平日	土日祝日
		往路	4便程度
復路	4便程度	2便程度	

運行便数	平日		土日祝日	
	再編前	再編後	再編前	再編後
往路	5便	5便程度	2便	2便程度
復路	4便	4便程度	2便	2便程度
備考	上記便数には、札幌大通を終点とする便を含む。			

系統2	<ul style="list-style-type: none"> 起点：あけぼの団地昭光福祉会前、 終点：新さっぽろ駅前 往路の平日始発便。酪農学園の開学時間前の運行であるため、学園構内ではなく国道12号を経由。 		
	運行便数	平日	土日祝日
		往路	1便程度

乗降できるようになる停留所	団地入口、北炭団地、(仮)南大通中原通交差点付近、(仮)あさひが丘自治会館西側付近、体育の里、東野幌本町、(仮)「開進」バス停付近、伊達屋敷通、(仮)野幌若葉町宅地造成地北側付近、(仮)北海道林木育種場旧庁舎東側付近
乗降できなくなる停留所	野幌東町、若葉1丁目、若葉5丁目 ※一部系統で乗降可



系統3	<ul style="list-style-type: none"> 起点：あけぼの団地昭光福祉会前、 終点：札幌大通 夕張鉄道株式会社が運行する他の路線を補完するため、土日祝日の往路に設定する運行系統。 		
	運行便数	平日	土日祝日
		往路	—

江別市地域公共交通再編実施計画における事業の効果

路線新設による事業の効果

項目	事業の効果
(仮称)循環線の運行 (北海道中央バス株式会社)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駅から離れている見晴台方面や元江別、いずみ野方面とJR野幌駅の間を8の字型経路で運行することにより、通勤・通学における速達性の二ーズに対応するとともに、中心市街地との接続性の向上を図り、買物など中心市街地への誘客を促す。 ・ 江別4番通線と江別錦町線を統合することで、運行の効率化を図る。

運行経路の変更等による事業の効果

項目	事業の効果
江別2番通線の経路変更 (北海道中央バス株式会社)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「第2中学校前」停留所と「大麻11丁目」停留所間の経路を3番通へ変更することにより、運行目的が類似する他のバス路線との競争を一部解消するとともに、大麻地区北東側とJR大麻駅・野幌駅との接続性の向上を図る。 ・ 江別4番通線の廃止に伴う野幌地区北西側のバス路線空白化に対応するとともに、あけぼの団地方面やJR野幌駅などから野幌高校への通学に対応する。
江別・新さっぽろ線の運行系統の設定 (北海道中央バス株式会社)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経路の一部において、人口が増加している新栄台を通る系統を設定することにより、路線の利便性を高めるとともに、江別錦町線の廃止を補完する。 ・ 見晴台、元江別、いずみ野方面からJR江別駅へ向かう朝の通勤・通学に対応する系統を設定することにより、路線としての利用増を図るとともに、江別4番通線、江別錦町線の廃止を補完する。
札江線の経路変更 (北海道中央バス株式会社)	<ul style="list-style-type: none"> ・ JR江別駅と「3番通4丁目」停留所間の経路を、江別・新さっぽろ線と同一にすることで、江別市立病院への通院に利用できる路線にするとともに、路線としての運行の効率化を図る。
札幌線の経路変更 (夕張鉄道株式会社)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経路を、人口は多いが近くにバス路線がない地域とされる、あさひが丘東側や野幌若葉町南西側を通るものへ変更することで、野幌地区南側におけるJR駅や新札幌との接続性の向上を図る。

問合せ先

江別市企画政策部政策推進課 公共交通担当

〒067-8674 江別市高砂町6番地

電話 : 011-381-1295 (直通)

FAX : 011-381-1071

Eメール : seisaku@city.ebetsu.lg.jp